

松ヶ岡（旧山崎家住宅）

掛川市文化・スポーツ振興課

松ヶ岡は、安政3年（1856年）に山崎家の住宅として建てられ、主屋や長屋門などが当時のまま残されている貴重な歴史的建築物です。

明治11年（1878年）11月には、明治天皇の行在所（あんざいしょ、宿泊所）として使用されており、松ヶ岡がこの地域でもっとも格式の高い住宅であったことがうかがえます。

山崎家は、油やろうそく、葛布、金融業などを営む商家であり、明治時代には静岡県下で有数の富豪となりました。

8代目山崎千三郎（せんざぶろう）は、私財を公共のために積極的に使い、東海道本線の誘致や銀行の設立、大井川から用水を引くための測量などを行い、掛川の産業の発展に尽くしました。

また、同じ山崎家からは東京帝国大学経済学部長を務め、金融の研究に尽力した山崎覚次郎（かくじろう）という人物も出ています。



松ヶ岡（旧山崎家住宅） 主屋

概要

掛川市南西郷838番地 **P**あり（現在は約10台。修復完了後は数台増やす予定）
掛川駅より徒歩15分、掛川城より徒歩15分

主屋、長屋門（修復工事完了）

奥座敷棟、米蔵（現在修復工事中～令和11年度完成予定）

庭園、前庭

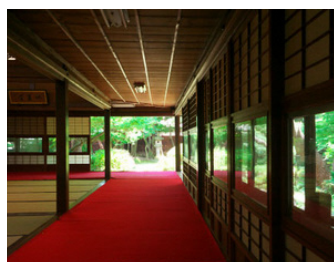
土地：5,302.16㎡ 建物：延床面積1,157.45㎡

主な備品

- スクリーン ○
- プロジェクター ○
- マイクセット ○
- 長机 ○
- 座布団 ○

設備

- wifi ×
- ミニキッチン ○
- 冷暖房 事務所スペースのみ○
- ウォシュレット付トイレ ○
（個室3室）



掛川市指定文化財

松ヶ岡

MATSUGAOKA PROJECT

旧山崎家住宅

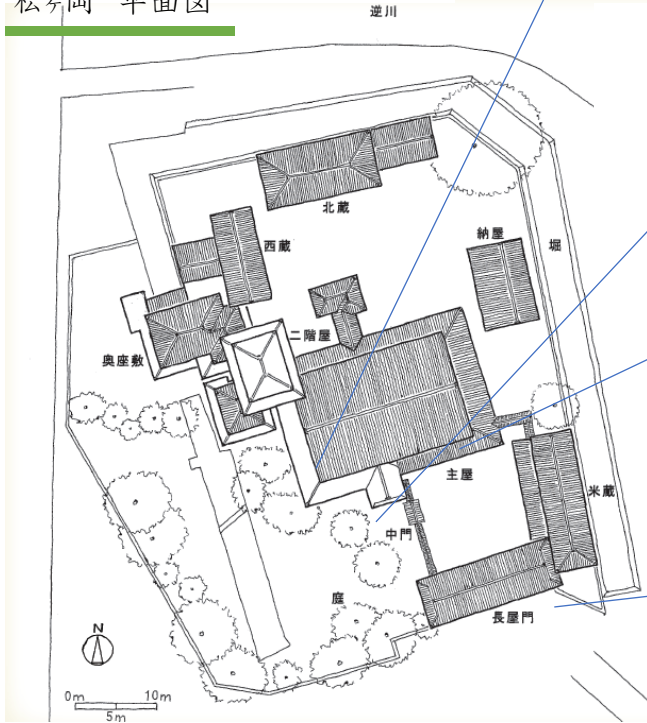


表座敷からみた庭園



庭園の様子

松ヶ岡 平面図



主屋の入口



長屋門、明治天皇行在所の石碑

松ヶ岡(山崎家)の歴史

年月	内容
安政3年(1856年)	主屋が建築される
明治11年(1878年)	明治天皇の北陸東海御巡幸の行在所(宿泊所)となる (昭和8年に聖蹟指定、昭和23年解除)
昭和30年代	山崎家が松ヶ岡を離れ、東京に引っ越すこと →近隣の方により管理されることに
平成22年(2010年)	当時の所有者より松ヶ岡を手放す意向が示される
平成24年(2012年)	地元の方々の強い要望により、掛川市所有とするに
平成28年(2016年)	掛川市指定有形文化財建造物に指定
令和2年(2020年)	主屋大規模修復工事開始
令和5年(2023年)	主屋大規模修復工事完了 長屋門・米蔵修復工事開始
令和7年(2025年)	奥座敷棟など修復工事開始
令和11年度末(予定)	奥座敷棟、米蔵修復工事完了
令和12年より(予定)	松ヶ岡全体を公開活用開始

松ヶ岡は安政3年に主屋が造られ、現在築170年になります。山崎家の初代・万右衛門は旧伊達方村より分家し、後に現在の松ヶ岡の地に移って隆盛を極めました。

掛川といえば掛川城が有名ですが、山崎家は掛川藩の御用商人となり、藩校の設置も財政的に支援した豪商であったと言われています。

松ヶ岡の特徴の一つに、近代の立役者を輩出したことが挙げられます。第8代山崎千三郎は、郷土の発展のために掛川銀行の設立や、私財を投じて用水や鉄道などのインフラ整備に尽力しました。また、千三郎の甥・覚次郎は、東京帝国大学教授として日本の金融論や通貨論の先駆的な研究を行いました。

こうして松ヶ岡は、商家として隆盛を極めただけでなく、掛川の発展に大いに貢献した二人を輩出した家として、後世の人々に大きく影響を与えました。



第8代 山崎千三郎



山崎覚次郎



明治天皇東海北陸御巡幸を記念した行在所の石碑です。この地域で最も格式高い住宅であったことがうかがえます。 →

掛川市指定文化財

松ヶ岡

MATSUGAOKA PROJECT
旧山崎家住宅

「以善堂」松ヶ岡の想いについて

※地元の団体が主催する清掃ボランティア活動は、毎月第四土曜日の朝8時から9時に実施。平成25年より始まり、現在162回になります。写真はボランティアの様子です。地元の中学生も参加してくれています。



「以善堂(いぜんどう)」

松ヶ岡に飾られた扁額には「以善堂」という文字が書かれています。これは「善い行いをする人が集まり、善い行いをする人を育てる場」という意味です。

“士”の掛川城、“農”の報徳社、“町人”の松ヶ岡

このキャッチフレーズのもとに、以善堂の想いを受け継ぎ、

- 【交流事業】市民が集い、協働の力により、文化の拠点をつくる。
- 【文化・教養】ふるさと掛川の文化財を大切に、後世に伝える。
- 【人づくり】「松ヶ岡」の歴史や偉人に学び、未来を担う子供を育てる。

この3つの理念を大事にし、今後令和12年度以降の本格的な活用においても、この3つの理念をもとに活用していきたいと考えております。

現在の活用の取組(企業の皆様へのご相談)

現在、松ヶ岡では建物の雰囲気や歴史的背景を活かした活用を行っております。特に今回は、企業様との意見交換において、新たな視点での活用案を見出したいと考えております。

令和11年度末までに修復工事を完了予定

令和12年度以降本格的な公開活用を予定

＜意見交換を希望する内容＞

- ◆自分たちで運営資金を確保する仕組みづくり
- ◆企業という視点での松ヶ岡の価値、価値を活かす方策（例：福利厚生や研修会場など）、実現の可能性
- ◆令和11年度末段階で未修復となる土蔵などについても民間事業者様による整備が考えられるかどうか。



普段一般公開では入れない、修復工事現場の見学会や体験会



近隣の大学生と高校生のよるこども向けコラボ企画「掛川の昔話の会」



「松ヶ岡を受取る会」が主催する教養講座「松ヶ岡ものがたり」



一般社団法人日本庭園協会による、庭園修復基礎研修での使用



掛川市出身能楽師・長谷川晴彦氏による能楽講座・能楽イベント開催



野村総合研究所主催の、関係人口をテーマにした事業「ハッカソン」にて使用



静岡県文化財建造物監理士実践力向上講習会(実測演習)にて、実測演習として使用



静岡県指定無形民俗文化財獅子舞かんからまち(瓦町)が松ヶ岡を舞台として披露



静岡文化芸術大学の学生が地域連携演習の場として、松ヶ岡を実測演習として使用